

CITATION: Abalos E, Duley L, Steyn DW. Antihypertensive drug therapy for mild to moderate hypertension during pregnancy. *Cochrane Database of Systematic Reviews* Cochrane Pregnancy and Childbirth Group, 2014 Issue 2. Art. No.: CD002252 DOI: 10.1002/14651858.CD002252.pub3.

CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 30 April 2013

Clib issue No.; N/U: 2014 Issue 2; Update

## アブストラクト

**背景:** 軽度から中等度の妊娠高血圧は頻繁に見られる。血圧を下げることで重度疾患への進行を予防し、そのために転帰が改善するという考えで、しばしば降圧薬が使用される。

**目的:** 軽度から中等度の妊娠高血圧の女性に対する降圧薬治療の効果を評価すること。

**検索戦略:** Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2013年4月30日)および抽出した試験の文献一覧リストを検索した。

**選択基準:** 出来る限り、収縮期血圧が140~169mmHg、拡張期血圧が90~109 mmHgと定義される軽度から中等度の妊娠高血圧に対する降圧薬治療を評価したすべてのランダム化試験。1種類以上の降圧薬がプラセボ、降圧薬なし、別の降圧薬と比較され、その場合の予定治療継続期間は少なくとも7日間であった。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが個別にデータを抽出した。

**主な結果:** 49試験(女性4,723例)を組み入れた。29試験では、降圧薬とプラセボ/降圧薬なしが比較された(女性3,350例)。降圧薬の使用で重度高血圧の発症リスクは半減する[20試験、女性2,558例; リスク比(RR) 0.49; 95%信頼区間(CI) 0.40~0.60; リスク差(RD) -0.10 (-0.13~-0.07); 有害性に対して治療する必要数(NNT) 10(8~13)]が、子癩前症リスクの差異を示すエビデンスはほとんどない(23試験、女性2,851例: RR 0.93; 95% CI 0.80~1.08)。同様に、新生児死亡(27試験、女性3,230例; RR 0.71; 95% CI 0.49~1.02)、早産(15試験、女性2,141例; RR 0.96; 95% CI 0.85~1.10)、胎内発育遅延(20試験、女性2,586例; RR 0.97; 95% CI 0.80~1.17)のリスクに対する明確な効果はない。他のどのアウトカムにも明確な差異はなかった。

22試験(女性1,723例)では、1種類の降圧薬が別の降圧薬と比較された。別の薬剤は重度高血圧リスクの低下に関してメチルドーパよりも優れていると考えられる[11試験、女性638例; RR(ランダム効果) 0.54; 95% CI 0.30~0.95; RD -0.11(-0.20~-0.02); NNT 7(5~69)]。ベータ遮断薬およびカルシウム拮抗薬を統合してメチルドーパと比較した場合には、蛋白尿/子癩前症の全発症リスクも低下する(11試験、女性997例; RR 0.73; 95% CI 0.54~0.99)。しかし、個々の薬剤については、重度高血圧および蛋白尿のいずれに対する効果も見られない。他のアウトカムは一部の試験のみで報告され、明確な差異はなかった。

**レビューアの結論:** 軽度から中等度の妊娠高血圧に対する降圧薬療法に価値があるかどうかは依然として不明である。

## 平易な要約(Plain language summary)

## 軽度から中等度の妊娠高血圧の降圧薬治療

軽度から中等度の妊娠高血圧に対する降圧薬治療に価値があるかどうかを示す十分なエビデンスはありません。

正常な妊娠初期の週には血圧が下がり、妊娠後期にはゆっくりと上昇して満期時には妊娠前の水準に達します。妊娠中、軽度から中等度の妊娠高血圧は頻繁に見られます。一部の女性では、それが重篤化して入院、子癇前症（高血圧を含む妊娠合併症）、早産の可能性につながることがあります。この進行を予防するという考えで、血圧を下げるために降圧薬がしばしば使用されます。女性4,723例が関与する49試験を対象とした本レビューでは、軽度から中等度の妊娠高血圧に対する降圧薬の利益を示す十分なエビデンスはないことが示されました。さらなる研究が必要です。

（監訳 江藤 宏美）

翻訳公開日：2015年5月29日

**ご注意**：この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版（英語版）の内容をご確認ください。